

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 アサンプション国際小学校 (※正式名称を記載)

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫※注1

☐ 中学校 ☐ 中高一貫※注2 ☐ 高等学校

☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校

☐ 特別支援学校

☐ その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒562-8543

大阪府箕面市如意谷1丁目13番23号

E-mail

Website https://www.assumption.ed.jp/primary/

幼児児童生徒数 男子 15 名 女子 193 名 合計 208 名

幼児・児童・生徒の年齢 7 歳～12 歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「誠実・隣人愛・喜び」をモットーとして、「国際理解教育」「食育」「奉仕活動」を行い、“自身を見つめ、違いを受容する”“他者と協働し世界に貢献する”ということを目指している。その中でESDを「児童一人ひとりが果たすべき使命」と捉え、ESDの実践を通して“人の心の中に平和の砦を築かなければならない”というUNESCO憲章の精神を実現する社会の担い手となることを目指している。

具体的には、前述した「国際理解教育」「食育」「奉仕活動」を柱にして、以下の3つの活動を中心に行った。

①ユニクロ“服のチカラプロジェクト”に参加

②食育菜園での命のリレーの体験

③節食ランチでの献金、お米一握り運動の実施

①ユニクロ“服のチカラプロジェクト”に参加

ユニクロが毎年実施している“服のチカラプロジェクト”に参加した。難民の人たちが直面している苦労、厳しさを知り、自分たちにできることを考えること

を大事にした。これは主に SDGs の「GOAL1:NO POVERTY」に当たるものであるが、学習を進めていく中で「GOAL3:GOOD HEALTH AND WELL-BEING」や「GOAL6:CLEAN WATER AND SANITATION」の内容にも触れていった。世界の同世代の子どもたちが今よりも幸せになるためには、自分に何ができるかということを深く考え、このプロジェクトに参加することとなった。結果的にダンボール箱 10 箱分の古着を集めることができ、タンザニアの難民の人たちのもとへと届けることができた。子どもたちには、これでももちろん問題が解決したわけではないという意識を持たせ、根本にある問題は何か、その解決に向けてできることなども継続して考えていく授業を行った。

②食育菜園での命のリレーの体験

「食育」での学習を通して、いのちの循環により、自然界と共に生きる私たちの生活のあり方、自然界との共存を学び、日常生活に活かしている。自分たちで育てた食物を収穫し、調理し、いただくことで、その実感はより深いものとなる。今年度も 1～6 年生の全学年が調理実習をおこない、いのちをいただくことの意味、ありがたさを全員が感じる事ができた。

③節食ランチでの献金、お米一握り運動の実施

UNESCO 憲章が宣言している「国際平和と人類の共通の福祉」という目的に向け、本校の理念に基づいて「節食ランチでの献金」「お米一握り運動」を実施した。集まったお金は地域社会福祉に役立て、お米は釜ヶ崎野宿者のためにふるまわれた。この活動を通して、社会に役立つ喜びを感じさせ、その後も様々な形で貢献していける子どもを育てることを目標としている。



① 服のチカラプロジェクト
「古着回収呼びかけ」の写真



① 服のチカラプロジェクト
「古着発送準備」の写真



② 食育菜園での命の収穫の
写真



③ お米一握り運動の写真

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

- ・ユニクロ “服のチカラプロジェクト”
<https://www.uniqlo.com/jp/sustainability/school/>
- ・「難民についての授業の手引き」国連 UNHCR 協会編著
- ・国連 UNHCR 協会ウェブサイト
<https://www.japanforunhcr.org/archives/?cat1=197>

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

今年度は、4年生が年間を通して難民問題に対して学習を進めた。「貧困」「福祉」などを中心に、「自分ができることは何だろうか?」と、常に自分に問いかけ続けながらの学習となった。

来年度からは、各学年の「総合的な学習の時間」の中で、年間カリキュラムの軸として設定していこうと考えている。SDGsの17の目標の中でそれぞれの学年に適切だと考えられるものを選び、他教科での学習と関連も持たせながら指導していく。本校で6年間生活する中で、多くのテーマについての学習を深め、その解決に向けて行動できる子どもを育ていきたい。また、外部講師を招いたり、教員が外部研修に参加したりして、日々指導内容についての研究を重ねていく。

また、節食ランチでの献金、お米一握り運動は、主として委員会活動の一環として行っていく予定である。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

学校全体で目指す子どもの姿を共有し、全教員が同じ目標に向けて指導できるように体制を整えていっている。また、伝統として根付くように、毎年継続し続けるということを意識している。教員にも児童にも「特別な」取り組みとはならず、「いつもの」取り組みとして捉えられるようにし、協力するのが当たり前という意識を持たせるようにしている。また、外部との関わりも大切にし、自分たちのしたことが社会に貢献できているという実感を持たせる取り組みも大切にしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

内部の評価としては、取り組みの事後報告を行い、一人ひとりが振り返りの時間を持てるようにした。自己評価という形ではあるが、自分のしたことがどれくらい役立ったのかを知ることができていた。

【成果】人の役に立てている喜びを感じることができていた。また、もっとできることはないかという気持ちを持たせることができた。

【課題】間接的な支援活動が多かったため、児童によっては実感を持つことが難しい子もいた。様々なものに関わって、本当に必要な支援とはどういったものなのかを考えさせていきたい。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

まだまだ校内だけでの活動が中心で、推進拠点としての発信という点では不十分だったと思われる。ユニクロの“服のチカラプロジェクト”だけは、近隣の公立小学校と共に活動を進め、ビデオレターという形でお互いの活動内容を報告し合うことができた。発信することで本校の取り組みを知ってもらい来年度も実施したいという感想をいただけたし、本校の児童としても自分たちの取り組みに自信を深めることができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

今年度は、大阪ユネスコスクールネットワーク(ASPnet)に参加するだけにとどまった。様々な学校が取り組んでいることを知ることができたし、教員研修としても非常に学ぶべきことが多かった。今年度は初めての参加ということで全体に関わらせてもらうことだけで終わってしまったが、来年度は積極的に本校の児童も参加できるようにしていきたいと考えている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

本校の姉妹校としてつながりがある学校とは、留学生という形で交流することはあったが、ユネスコスクールとしてという立場ではなかなか交流の場を持つことができなかった。ASPnetの取り組みに参加し、中国や韓国の子どもたちと交流を持つ機会を持っていきたいと考えている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

今年度は、教員の変化が一番大きかったように感じる。同じボランティア活動をするにしても、指導内容が一過性のもので終わることもなく、継続的なものへと変わっていった。授業でも、一度の行為で終わりではなく、その根本にある問題は何だろうかと児童に問いかける場面が多くなっている。学級での日常の指導でも、ESD を意識した言葉かけが増えてきている。

（3）平成 30 年度の活動計画（200～400 字程度）

①ユニクロ“服のチカラプロジェクト”に参加
②食育菜園での命のリレーの体験
③節食ランチでの献金、お米一握り運動の実施
は、継続して実施する。
また、3～6年生の「総合的な学習の時間」において、SDGs のうちのいくつかを軸にして、年間を通した指導を行っていく。
その他、学校で行われる年間行事においても、ESD の要素を見出し、ユネスコスクールとして活動する意味を考えさせながらの指導を続けていく。